



観光竜王

Sight seeing RYUO

第84号

★
発行
竜王町観光協会

〒520-2592
滋賀県蒲生郡竜王町小口3番地
竜王町総合庁舎内1F
TEL 0748-58-3715
FAX 0748-58-3730
https://ryuoh.org
e-mail info@ryuoh.org



魅力ある観光の町、竜王の推進



竜王町観光協会

会長 若井 富嗣

盛夏の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は、竜王町観光協会事業全般にわたり格別のご支援・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今年、年明け早々から能登半島地域での地震発生やロシア・ウクライナに続きイスラエルによるパレスチナへの軍事侵攻により多くの人命や家屋、インフラを失うなど、前途多難な幕開けとなり、出口の見えない状況となっております。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

観光協会におきましては、令和二年秋から聖徳太子の開基や縁起、言い伝えが多く残る東近江地域で展開して参りました「近江の聖徳太子魅力発信事業」も本年二月をもって終了しましたが、この事業で発掘された素晴らしい観光資源を活かし、この町の豊かな自然環境と聖徳太子ゆかりの施設や源義経が鏡の地で元服したと言いつた伝えを多くの方々に情報発信し、観光誘客を目指した事業を展開します。

また、昨年開設した三井アウトレットパーク滋賀竜王の観光案内所の充実を図り、観光促進や観光誘客、地元農工商産品の紹介、近隣市町や滋賀県のイベント紹介など、竜王町のアンテナショップ

を目指して参ります。なお、ユネスコ無形文化遺産に登録された山上之ケンケト祭りや苗村神社節句祭、弓削の火祭り等地元祭の祭礼や各種行事を情報発信するほか、人が絶えない雪野山や鏡山のハイキングは、コースの安全性や充実配慮した整備として雪野山では看板等の修繕を行い、多くのハイカーが安心して満足感のあるハイキングの実施やリピーターの拡大に努めます。鏡山では、展望台等からの眺望環境の改善に向けた立木の伐採作業により、展望台の再開が実現できました。引き続き、環境改善を検討しハイキングの醍醐味である景観眺望の充実を目指しハイカーを中心とした観光誘客を促進致します。

竜王町の今後の観光を見据え、各地方への増加傾向でありますインバウンド対応や、来年、滋賀県で開催されます国民スポーツ大会や大阪万博のお客様の観光誘客についても事前準備と体制の備えを検討します。

今後より一層の積極的な情報発信と観光誘客に取組んで参りますので、皆様のご支援・ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。結びに、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

竜王町は大昔琵琶湖の底だった、そして焼物の一大産地となった



竜王歴史倶楽部 関川 雅之氏 (西横関)

大昔、竜王町は琵琶湖の底

琵琶湖が誕生したのは今から約四〇〇万年前と言われています。誕生した頃は、今よりもずっと南、現在の三重県伊賀盆地付近にありました。その後、地殻変動などによりゆっくりと北へ移動を始め、約四三万年前には現在の大きさ、形になったと推測されています。この時、移動した南北約五〇kmにわたって広がる地層を古琵琶湖層群と呼びます。この地層は、今の琵琶湖の元となった湖(「古琵琶湖」と呼んでいます)へと流れ込んだ土砂が堆積したものです。(図1参照)

た良質の粘土(陶土)ができたと考えられています。

昔、竜王町は須恵器の一大産地

竜王町と野洲市の境に位置する鏡山一帯には、古墳時代後期(六世紀中頃)から飛鳥・奈良時代(八世紀中頃)にわたって焼かれた焼物「須恵器」の窯跡(かまあと)が数多く存在し、「鏡山古窯址群(こようしぐん)」と呼ばれ、かつてはこの鏡山の麓が須恵器の一大生産地(推定一〇〇基以上存在)であったといわれています。

奈良時代に編纂(へんさん)された『日本書紀』には、「近江国の鏡村の谷の陶人(すえびと)は、天日槍(あめのひぼこ)の従人(職人)なり」と書かれています。天日槍は、朝鮮半島の新羅(しらぎ)国の王子です。ここでいう「陶(すえ)」は「須恵」と同じ器の意味を表すもので、鏡山麓で発見されている須恵器の窯跡や、近くに「須恵」という地名が存在することから、この鏡地域周辺と深い関係がありそうです。なお、「鏡」という地名は天日槍が持ってきた「鏡」をこの地に納めたからと伝わっています。国道八

号線沿いにある鏡神社(本殿は重要文化財)の主祭神は天日槍です。天日槍の従人がこの地に住み、文化、文明を広げたため、主祭神として祀(まつ)られていますとのことです。

その他、町内には朝鮮半島からの先進技術集団がこの地に至り、定住したといわれており、多岐にわたる分野で活躍したと伝えられ、「弓削(製弓)、綾戸(機織・はたおり)、須恵(製陶)、鏡(金工)、薬師(製薬)」の地名に、その名残(なごり)が窺えます。

須恵器生産の技術が南下?

ところで、甲賀市信楽町は陶器の町として有名です。その信楽を一望する愛宕(あたご)山には、頂上に加具土神(かぐつちのかみ)と天日槍を祀る愛宕神社があります。加具土神は火の神で、毎年七月に松明を奉納し、陶器生産に欠かせない火に感謝します。また鏡神社の主祭神である天日槍が陶祖神として分祀(ぶんし)されていることから、鏡地区の陶器職人たちが新たに原料とな

る土や、薪の材料を求めて南下し、最終信楽へ落ち着き、陶器の一大生産地として興盛していったと考えても良いかもしれません。

鏡山の麓一帯や信楽地域では、須恵器を作る原料である良質の粘土(陶土)が採取できたからこそ一大生産地となり得たわけです。

この良質の粘土が鏡山の麓や湖東地域、信楽地域にあるのは先に説明した琵琶湖の起源と関係します。

いろいろな産業が興りそれが発展してきたのは、その地域にある自然の上に成り立っていることを忘れてはなりません。

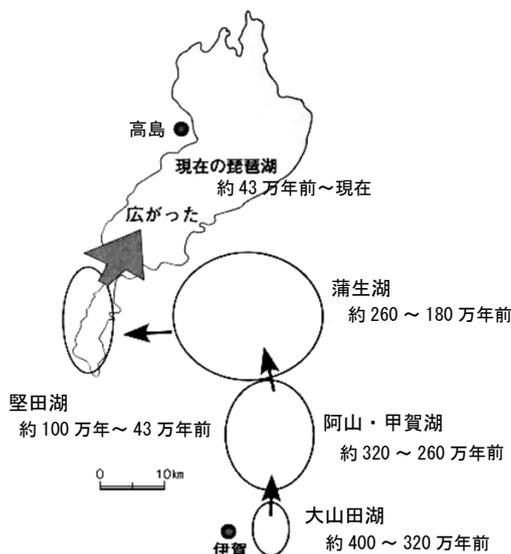


図1 琵琶湖の生い立ち

「歌枕鏡山」鑑賞考 鏡山は何故、歌枕となり得たか

山本 茂氏（美松台）

竜王町に住んで四十二年余り、朝夕に慣れ親しんでいる鏡山とも長い付き合いになる。だが、その割にはこの山について詳しく知らないことが多い。特に、鏡山の説明に使う「鏡山は歌枕」の意味が不明瞭と自覚している。

片桐洋一氏の定義を見つけた。その言を借りて言えば、「歌枕とは、単なる地名ではなく、特定の人的観念が結合した地名」であることがわかった。

鏡山には、歌枕に詠まれた和歌が百首あるという。小生が集めた和歌は、現在五十一首だが、これにて歌の特徴と分析を行う。調べた項目は、共通する言葉と意味、他の和歌との相違点である。読み比べた結果、鏡に因んだのか、特徴として見えるモノ（花や月）から見えない自身の心まで、鏡に映す表現を詠んだ歌が多い。そこで全五十一首の特徴を分類してみると、共通項目は三つのグループ（群）に分けられた。

一つ目はA群・現実描写のみの歌である。作者は兼盛、源順、恵慶、能因法師、俊頼、順徳院、道経など二十一首あり、例として平安中期の僧侶・素性法師の一首をあげる。一般的な情況描写を詠んだものである。

鏡山やまかきくもりしぐるれど
ちあかくぞ秋はみえける もみ

【意味】鏡山は、山が曇ってしぐれの雨が降って来たけれども、もみじはそれにもかかわらず赤く照り映えて、今年の秋の風情は見えたなあ。

次にB群・現実描写に想像描写を加えた歌。作者は貫之、中務、親隆、大僧正隆弁、永範で十六首。下述に例と

してあげた平安歌人・坂上是則の歌は、桜があまりに美しいので鏡の力で花を映し秋まで見えるようにとの願う、時空をこえた壮大な想像である。

花の色をうつしとどめよ鏡山 春よりのちの影や見ゆると

【意味】花の色を、その名のように鏡に映して、移し留めておくれ鏡山。春の過ぎ去った後も、花の影が見えるように。鏡に花の色を映して移し留め、後々までも花見る清々しさがあって欲しいものだ。余談ではあるが、当町にある菓子店正栄堂の銘菓「中山道鏡の里」の包装紙には、この是則の歌が載っている。店主は、味のある選択をされたと感じる次第である。

3つ目はC群・現実描写に心的描写を加えた歌。作者は能宣、俊成、定家、家持、足利義尚、本居宣長などで十四首ある。例として平安前期の歌人、大伴黒主の一首を紹介する。この歌は、鏡の力で我が身を映してほしいとする自己観照の歌といえようか。

鏡山いざたちよりみていかむ 年へぬる身は老いやしぬると

【意味】さあ鏡山に立ち寄り、名の如く鏡に姿を映して行こう。年を重ねた我身は老いたであろうか。

総括すれば、鏡山が歌枕になった要因（優れた点）は、下記五項目といえよう。①鏡山の「カガミの力」で（心

の反映）つまり自己観照ができた。②鏡山的美観を「カガミの力」で空想の拡がり（時空、想像を越える）を得て、和歌に厚みを加えた。③鏡山には、歌の主役（鏡）に負けない、（それ単独で主役をはれる）脇役として月・鳥（ほととぎす）を持っていた。④鏡山の名前の由来が古代（天日槍・壬申の乱の時代）に遡り、かつ伝説となり連綿と引き継がれたことで、和歌に重みが増わった。⑤鏡山は東山道として永く一級道であり古来、都から徒歩一日の距離。往来激しく、歌人も多かったので地勢的にも歌枕として、格好の場であったのだ。

このように今回の分析で「鏡山の歌枕」が、いかに優れたものだったか理解でき、さらに和歌の美しさ・楽しさをも再認識できた。大事に守り育てたものだ。だが年経るほど山容は変化し、和歌の脇役が退場していく中、時鳥だけは毎年変わらず飛来してくる。有り難いものだ。せめて御礼の言葉にかえて自作の句を献上し、その労をねぎらいたい。

よう来たな ことし初音のほととぎす



時鳥サントリー



木曾路名所図会

令和六年度の主な事業計画

【事業】

- ① 広報誌「観光竜王」の発行
- ② アウトレットパークにおけるイベント活動
- ③ JRふれあいハイキング
- ④ 鏡の里元服式
- ⑤ 雪野山、鏡山ハイキングコース等の整備
- ⑥ 広域観光キャンペーン観光誘客活動
- ⑦ 近隣観光キャンペーン観光誘客活動
- ⑧ SNSによる情報発信の強化
- ⑨ 観光ポスター・チラシの制作・配布
- ⑩ 農業体験
- ⑪ 役員研修会
- ⑫ 環境王国への支援
- ⑬ 竜王歴史倶楽部の活動支援
- ⑭ 会員・ドラゴン屋台村への事業幹旋活動
- ⑮ 「近江つし丸」による観光振興・観光誘客

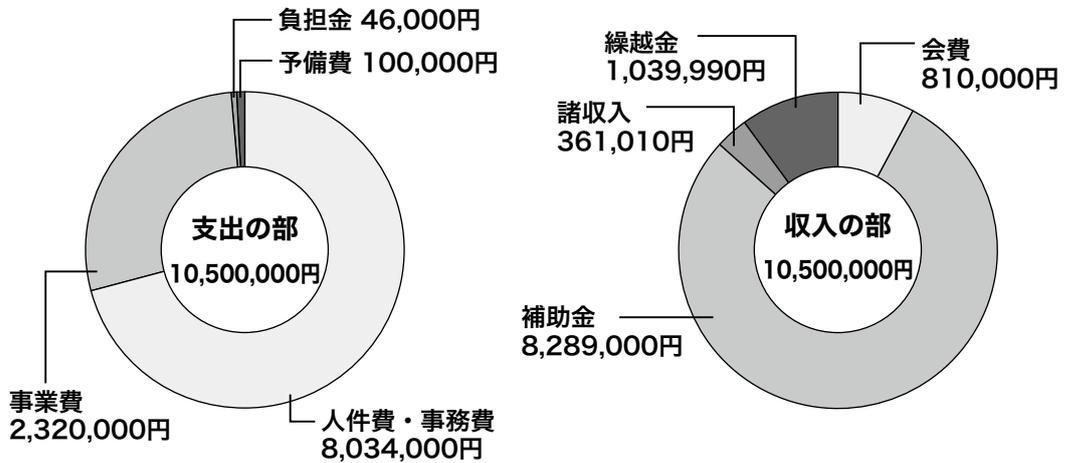
竜王町観光協会 役員名簿

(敬称略)

会 長	若井 富嗣
副会長	邑地 礼子
副会長(会計)	清水 正作
理 事	井口 敏夫
理 事	岩田 英司
理 事	小野 定章
理 事	勝見 和夫
理 事	木曾 公子
理 事	谷村 明美
理 事	寺島 健一
理 事	寺島 司
理 事	寺本 育美
理 事	中村 匡希
理 事	森嶋 政文
理 事	山添みゆき
監 事	福本 宏弥
監 事	山口 吉範
幹 事	岩田 和弥 (新任 商工会)
幹 事	谷村龍之介 (商工観光課)
事務局	堀江 豊造
事務局	西居 利恵

令和6年5月17日現在

令和六年度の収支予算の内訳



今後のイベント・祭典情報

- 鮒ずし漬込み体験
七月十四日(日)午前九時より
農村女性の家 調理室
- グランまるしえ
七月二十一日(日)午前十時より
三井アウトレット南モールセ
ンタコート
- 苗村神社不動明王御開帳・大護摩供
八月三日(土)
- 御開帳 午前九時より
大護摩供 午後三時より
苗村神社・不動堂
- 駕輿丁延命子安地藏尊御開帳
八月二十四日(土)午前九時より
駕輿丁地藏堂
- グランまるしえ
九月八日(日)午前十時より
三井アウトレット南モールセ
ンタコート
- JRふれあいハイキング
十月五日(土)午前九時三十
分より
岩屋不動尊、オウゴ古墳、真
氣神社界隈
- JRふれあいハイキング
十一月十六日(土)午前九時
三十分より
苗村神社、龍王寺界隈、野
菜収穫体験
- グランまるしえ
十一月十七日(日)午前十時
より
三井アウトレット南モール
センタコート
- とがらい祭り
十二月十四日(土)午後二時
より
鏡神社

あとがき

コロナも小康状態となる中、観光協会では、東近江地域と連携した『聖徳太子薨去一四〇〇年』事業で、聖徳太子御作との言い伝えやゆかりのある小口の観音禅寺や駕輿丁の地藏堂、須恵の観音堂、弓削の阿弥陀寺、岡屋の吉祥寺観音堂を巡るツアーを三回催行し、多くの方々から好評を得ました。

私たちの生活の中で最も身近に存在していたこれらについては、いつでも行けるという感覚や身近過ぎる感覚から素晴らしい観光資源であるとの感覚が欠如していたかもしれません。

今後は、そういった感覚を排除して町内にある資源を見出して磨き上げ、観光資源をベースにした観光誘客の促進に努めて参ります。

資源を磨き上げれば、素晴らしい観光資源となり、多くの観光誘客促進に繋がるのも感覚次第と感じました。

(観光協会 事務局)